

令和4年度 幼児教育研修（年齢別担任研修0歳児）全3回まとめ
「子どもの発達と保育者の関わりについて」

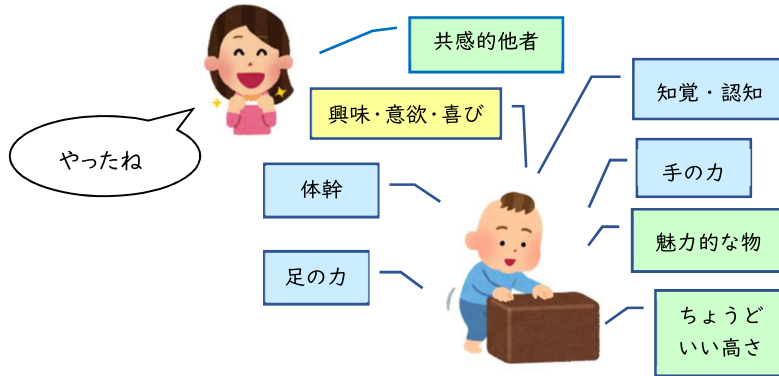
講師：相模女子大学 准教授 金元 あゆみ 氏



● 0歳児の発達の捉え方 ●

- ♥ 何か月に何ができるかというよりも、発達の過程が大切です。
- ♥ 発達は、人やモノとの相互性の中で、個別性、順序性、連続性をもっています。
- ♥ 子どもが今何を獲得しようとしているのかを考えて、それを支えていきます。

■■ つかまり立ちを支えるもの ■■



保育者は、この子の姿をよく見て、願い（やりたい・触ってみたいなど）が叶う環境を用意していきましょう。

● 0歳児の遊び ●

- ・子どもは、周囲のものや保育者の応答的なやり取りの中で心地よさを感じ、興味や関心が芽生えていきます。
- ・触ってみたい、取ってみたいなど子どもの心が動くことで、ものへの働きかけが生まれます。子どもは今ある力を使いながら、ものの性質や面白さを見つけていきます。
- ・うつ伏せや寝返りなどが出来るようになると、視界の変化により興味の範囲が外に向かうようになり、ものに働きかける意欲が高まります。
- ・子どもは指さして、自分の感じている世界の魅力、発見を紹介しています。そして、自分の世界を共に味わってくれる他者（保育者）を信頼するようになります。

二項関係

何これ？
触ってみたい。



あれね

三項関係



横並びのまなざし

● 保育者の関わり ●

共感的な関わり

Aくんが楽しんでいることは何だろう？



- ・子どもが味わっている感覚（重さ、温度、手触り、体に伝わる振動等）、子ども側に立ち上がる喜びを見とります。
- ・保育者の価値観で遊びを見るのではなく、子どもの世界に入っていく、子どもが楽しんでいる・面白がっていることを分かってもらうという姿勢で関わります。
- ・表面的な要求の根底にある、子どもの本当の願い、なりたい・ありたい姿に共感します。
- ・保育者は次への発展を急ぎ過ぎず、子どもが納得いくまで十分に人や物と関わられるようにします。

子どもの世界の面白さや楽しさが分かりづらいことがあります。保育者は、子どもの世界を尊重し、あなたの世界を教えるという姿勢（共感的な関わり）で、関わるのが大切です。

●食事の援助●



- ・子どもは、自分の気持ちを受け入れてくれる信頼する保育者と共に食事をする事で、安心感がもてるようになります。
- ・保育者は、子どもの些細な表情や仕草から「自分で食べよう。」とするタイミングを捉え、食への肯定的な感情を育てていきます。

↓ そのためには・・・

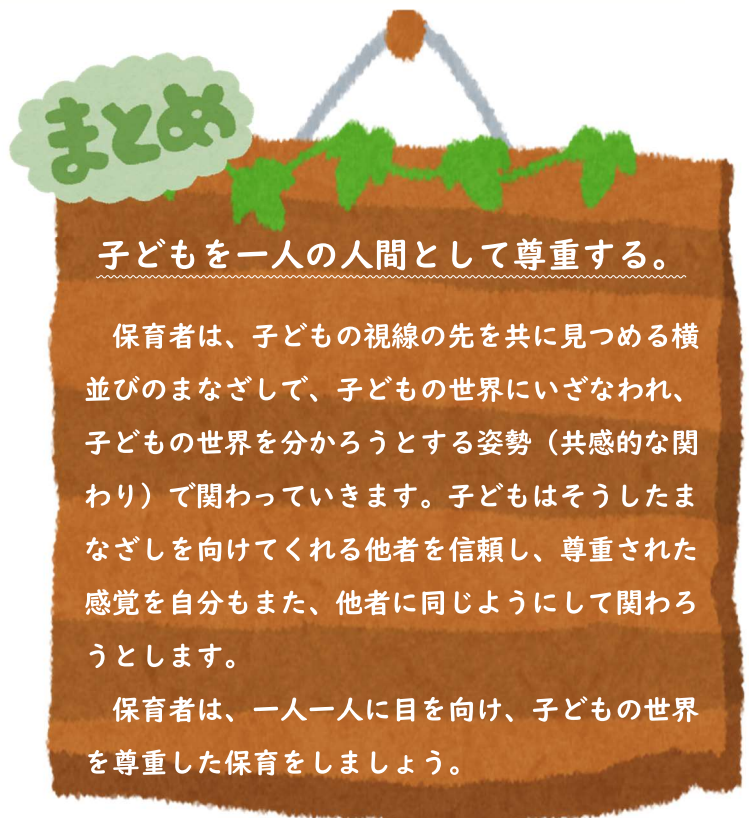
この子にとって食べる喜びや楽しさを味わえる落ち着いた食事環境を整えていくことが大切です。保育者は、今ある環境でどのようにできるかを考えていきましょう。

●生命（いのち）の安全教育●

- ・0歳児は、言葉で上手く自分の気持ちを伝えられませんが、快・不快を表情や仕草で表現しています。
- ・0歳児は、着替えやおむつ替えなどの生活面や抱っこやスキンシップなどの遊びの中で体に触れられることが多くあります。

↓ だからこそ・・・

- ・子どもが自分の身体を大切にされる感覚、自分が尊重されている経験を感じられるように、保育者は子どもの気持ちを汲み取り、できる配慮を考えていきます。
- ・体に触れる場面では、人権擁護、プライバシーを尊重すること忘れずに、子どもと関わりたいと思います。



研修生の報告書より

保育で大切なことの根本をしっかりと繰り返し伝えていただき、3回の研修を通して、子どもを個人として尊重する大切さを学びました。一人一人を理解しようと努め、子どもをよく見て感じられるように、子どもたちと関わっていきたいと思います。

3回の講義で、子どもの世界を見る保育者のまなざしを学ぶことができました。子どもの遊びの様子を見守りながら、子どもの目の輝きや期待などを見逃さずに、子どもの誘いに乗れるように「共に」の思いで関わっていきたいと思います。